

目 次

1 開会の挨拶	3
成田 友代 東京都保健医療局技監	
2 献血功労者厚生労働大臣表彰・感謝状伝達式	4
東京都知事感謝状贈呈式	
3 献血セミナー	5
ー献血の現状と課題ー	
鹿野 千治 東京都赤十字血液センター	
4 基調講演	14
災害医療 ー血液供給を含めてー	
座長 藤田 浩 東京都立墨東病院 輸血科	
演者 丸山 嘉一 日本赤十字社医療センター 国内医療救護部・国際医療救援部	
5 輸血療法Q&A	37
座長 牧野 茂義 東京都赤十字血液センター	
水村 真也 虎の門病院 輸血・細胞治療部	
(1) 科学的根拠に基づいたアルブミン製剤の使用ガイドライン改訂版のポイント解説	37
演者 佐藤 智彦 東京慈恵会医科大学附属病院 輸血・細胞治療部	
(2) 輸血用血液製剤保管管理ガイドについて	49
演者 奥田 誠 東邦大学医療センター大森病院 輸血部	
6 輸血療法シンポジウム	60
テーマ：東京都における災害時の輸血療法	
座長 奥山 美樹 東京都立駒込病院 輸血・細胞治療科	
田野崎 隆二 慶應義塾大学医学部 輸血・細胞療法センター	
オーバービュー	60
藤田 浩 東京都立墨東病院 輸血科	
(1) 東京都(行政)の立場	67
深井 園子 東京都保健医療局保健政策部	
(2) 日赤の立場	71
大城戸 秀樹 東京都赤十字血液センター	
(3) 医療機関の立場	80
城川 雅光 東京都立広尾病院 総合救急診療科	
ディスカッション(総合討論)	100
7 閉会の挨拶	103
藤田 浩 東京都輸血療法研究会世話人代表	

1

開会の挨拶

東京都保健医療局技監
成 田 友 代

東京都保健医療局技監の成田でございます。

本日は、御来賓の皆様をはじめ、御来場の皆様におかれましては、御多忙のところ「令和六年度献血功労者厚生労働大臣表彰状伝達式及び東京都知事感謝状贈呈式」に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

開催に当たりまして、御挨拶申し上げます。

本年度は、厚生労働大臣表彰状を二団体、厚生労働大臣感謝状を二団体、また、東京都知事感謝状を二名の方と五団体の方々が受賞されました。受賞された皆様には心よりお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

本日表示彰をお受けになられました皆様方には、職場や地域で、長年にわたり献血活動に御協力いただいております、東京都の血液事業は、こうした方々の尊い善意に支えられて成り立っていることはいまでもございません。

ここに改めて東京都を代表して、受賞されました皆様のこれまでの御功績に対し、深く敬意を表しますとともに、日頃から献血に御協力いただいている方々、関係者の皆様の御尽力に心から感謝を申し上げます。

さて、輸血医療に欠かすことができない献血でございますが、昨年度、都内では、延べ五十八万人の方々に御協力を頂き、その供給量は、全国の一割以上を占めているところでございます。

都内には、高度先進医療を担う病院が多く、また、少子高齢化社会の進展も踏まえると、将来の献血を支える若い世代の御理解と積極的な献血への御参加が強く求められております。

そのため、東京都では、厚生労働省や日本赤十字社、各関係機関の皆様と連携し、若年層を中心に広く都民に献血への御理解と御協力を呼びかけるなど、普及啓発活動に努めております。

今後とも、東京都の血液事業への一層の御理解を賜り、引き続き、献血の推進に積極的な御協力をお願い申し上げます。

結びに、本日表示彰をお受けになられる皆様に重ねてお祝いと感謝を申し上げますとともに、御列席の皆様の御健勝とさらなる御活躍をお祈り申し上げまして、私からの御挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

2

献血功労者厚生労働大臣表彰・感謝状伝達式 東京都知事感謝状贈呈式

厚生労働大臣表彰状受賞者（2団体）

（敬称略）

東京大学 教養学部
東京科学大学（旧：東京工業大学）

厚生労働大臣感謝状受賞者（2団体）

（敬称略）

江戸川区上篠崎自治会
調布市役所

東京都知事感謝状受賞者（2個人、5団体）

（敬称略）

公益財団法人 愛世会 愛誠病院
日本大学文理学部
株式会社きらぼし銀行
リコージャパン株式会社
鵜の木二丁目町会

（個人の方のお名前につきましては、記載を省略させて頂いております。）

3

献血セミナー

献血の現状と課題

東京都赤十字血液センター

鹿野 千治

ただ今ご紹介いただきました、東京都赤十字血液センターの鹿野と申します。このような貴重なお時間を頂きまして、関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

それでは、私から「献血の現状と課題」について、ご説明をさせていただきます。

【スライド 1】

献血の現状と課題

東京都赤十字血液センター
鹿野 千治

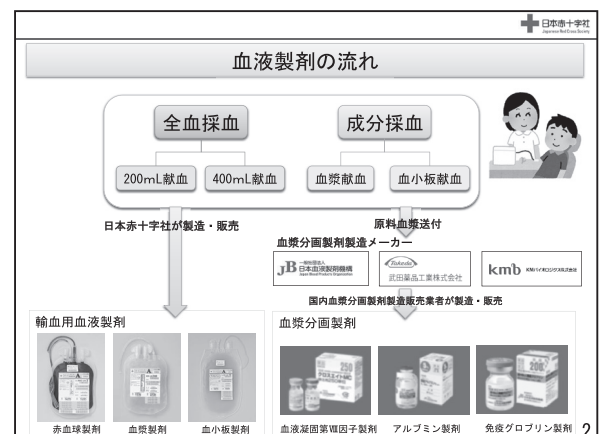


日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

令和6年11月29日(金)
第23回 東京都輸血療法研究会

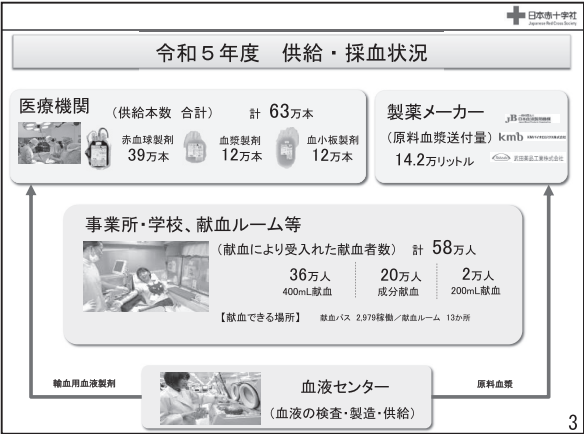
まず、血液製剤の流れですけれども、献血には、全血採血と成分採血がございます。全血採血は、200mL、400mL献血、また成分献血については、血漿献血と血小板献血になります。左下段にございますとおり、輸血用血液製剤につきましては、日本赤十字社が製造・販売を行っており、右側の血漿分画製剤につきましては、血漿分画製造メーカー3社が製造・販売しているという状況でございます。

【スライド 2】



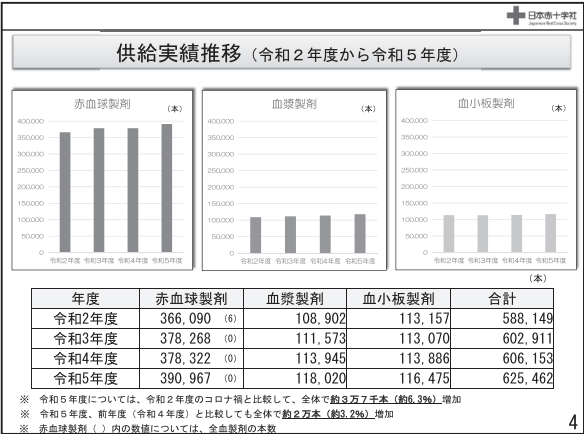
【スライド3】

次に令和5年度の供給・採血状況になります。上段に記載のとおり、医療機関への供給本数につきましては約63万本になります。また、右側の製薬メーカーに原料血漿を送付した送付量につきましては約14.2万Lでした。中段にございますとおり、事業所・学校・献血ルーム等で献血いただいた協力者につきましては、約58万人の状況でございます。



【スライド4】

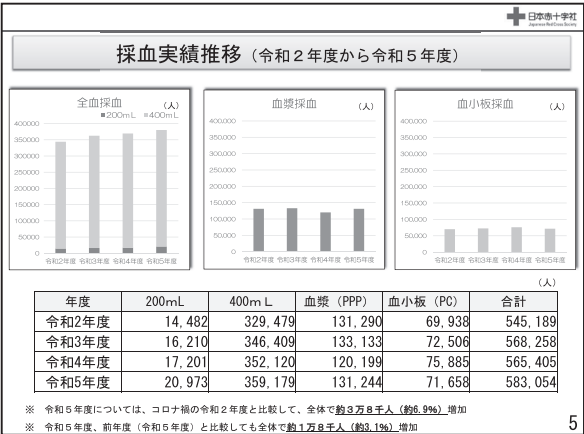
次に供給状況の実績の推移ですが、令和2年度から5年度をお示ししております。下段の表にございます、令和5年度につきましては、先ほど説明したとおり、62万5,462本の供給状況でございます。令和2年度のコロナ禍と比較しますと、全体で約3万7,000本、6.3%増加となり、昨年度と比較しますと、約2万本の3.2%の増加した状況になります。



【スライド5】

次に、採血実績の推移でございます。令和5年度、下段の表にございますとおり、58万3,054名の方々にご協力をいただいた状況でございます。コロナ禍の令和2年度と比較しますと、約3万8,000人、6.9%の増加、昨年度と比較しますと、約1万8,000人の3.1%増加した状況になります。

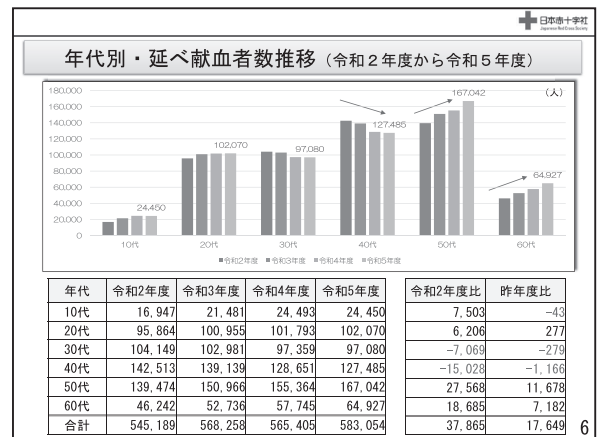
また、200mL献血につきましては、令和5年度、2万973名の方々にご協力いただいております、令和2年度と比較して多い状況でございます。こちらは、学域献血、いわゆる大学・高校・専門学校等の献血が増加したという状況でございます。



【スライド6】

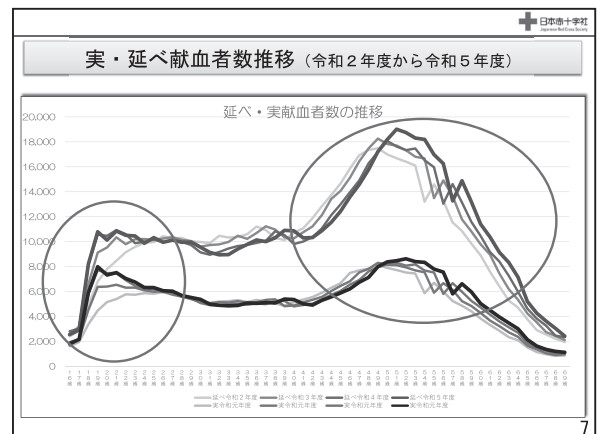
次に年代別の延べ献血者数の推移になります。令和5年度は、先ほどご説明したとおり、58万3,054名の方々にご協力いただきまして、令和2年度のコロナ禍と比較しますと、3万7,865名増加しているという状況でございます。

ただ、上段の棒グラフにお示ししているとおり、40代は減少傾向、50代、60代につきましては増加傾向の状況が継続しております。



【スライド7】

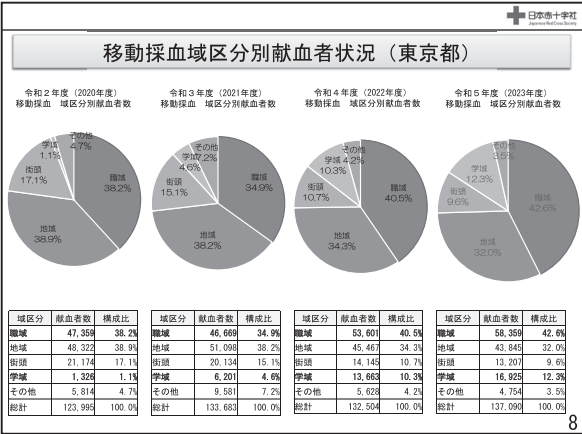
次に実献血者数、延べ献血者数を、折れ線グラフで各年歳ごとにお示ししたものです。下段が実献血者数、上段が延べ献血者数になります。左側の円で囲っております10代から20代前半の、濃い折れ線グラフですが、年々増加傾向にあります。また右側の40代から60代につきましては、人口の動向に伴い、後ろに流れていく傾向がみえ、少子高齢化に伴いまして、高齢者人口が増加していくという背景もございますので、若年層の確保強化が必要だという状況となります。



【スライド8】

次に移動採血の域区分別の献血者推移になります。左側グラフの令和2年度をみますと、職域、いわゆる企業等の献血のご協力が、移動採血全体の38.2%を占めている状況でございました。右側グラフの令和5年度は、職域が42.6%を占めており、企業献血が増加しているという状況でございます。

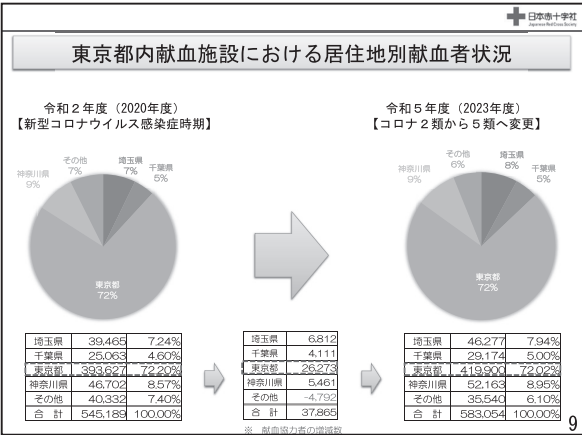
また学域献血をみますと、左側グラフの令和2年度が1.1%、1,326人のご協力でしたが、右側グラフの昨年度、令和5年度につきましては1万6,925名、12.3%を占めるご協力をいただいております。



【スライド9】

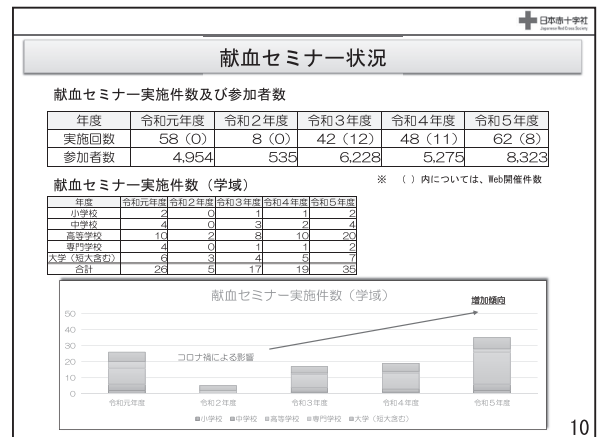
次に東京都内の献血施設における居住者別の献血者状況になります。左側グラフの令和2年度につきましては、コロナ感染症時期になりますが、東京都の献血者が約72%を占める状況でございました。

また右側グラフの昨年度につきましても、同様に72%の状況ですが、中段に記載のとおり、2万6,273名、都内の献血者が増加している結果となっております。こちらにつきましては、大都市圏と言われる愛知県や大阪府では80%を超えている県民、府民の献血協力状況であり、より都民の協力を強化していきたいと考えてございます。



【スライド10】

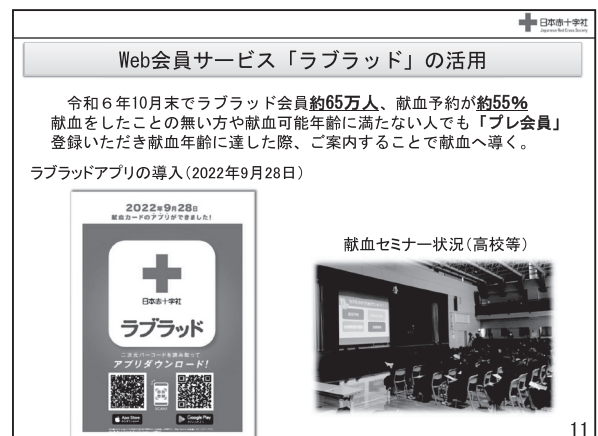
次に、献血セミナーの状況になります。上段右の令和5年度の実績をみますと、実施回数が62回、そのうち、Web開催が8回という状況でございます。また参加人数は8,323名と、年々増加している状況になります。令和2年度のコロナ禍の状況は、実施回数が8回、参加者については535人と、かなり低い状況でしたが、年々献血セミナーも強化して、高等学校等を含め、献血の知識を学んでいただいているというところです。



【スライド11】

次にWeb会員、ラブラッドの活用状況でございます。2022年度9月28日に、ラブラッドアプリを導入し、今年度10月末で、ラブラッド会員は約65万人、献血予約は55%のご協力をいただいております。

また、献血可能な年齢に満たない方であってもプレ会員にご登録いただき、献血年齢に達した際に献血のご案内をさせていただくような機能もございます。

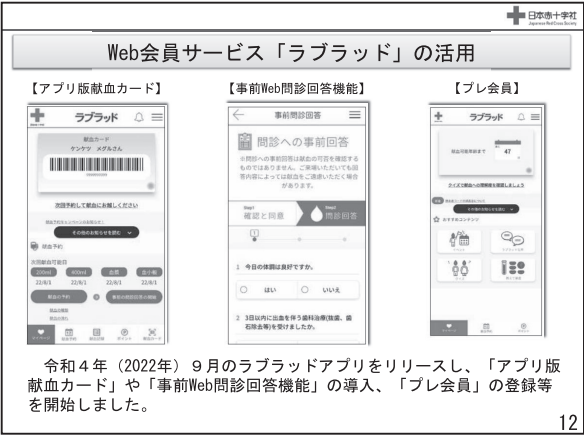


【スライド 12】

次にアプリの画面になります。左側が献血カードの状況でして、中段にございますとおり、献血種別によって次回の献血可能日が掲載され、前回、前々回も含む献血の履歴等が表示されます。また検査結果も確認でき、便利になっている状況です。

また中央の事前Web問診回答機能ですが、通常、献血会場に来ていただいてから問診が必要になりますが、こちらのアプリで事前に問診を済ませて来場いただくことで、会場での受付等がスムーズに進むという状況にございます。

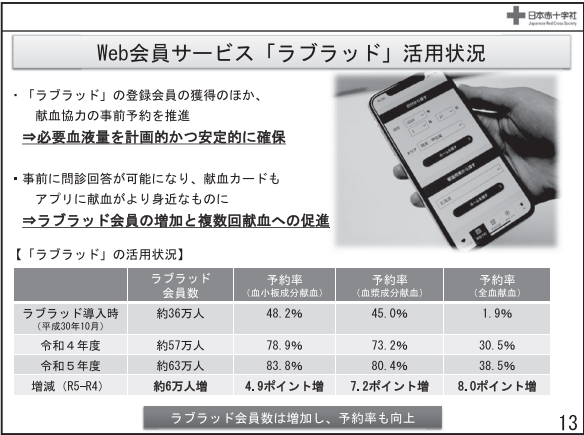
右側のプレ会員につきましては、上段に47と記載があり、この登録者が、あと47日経つと献血可能年齢になりますという表示をしたり、献血のご案内をするという機能です。また中段には、献血の知識を学んでいただくような記事を掲載しております。



12

【スライド 13】

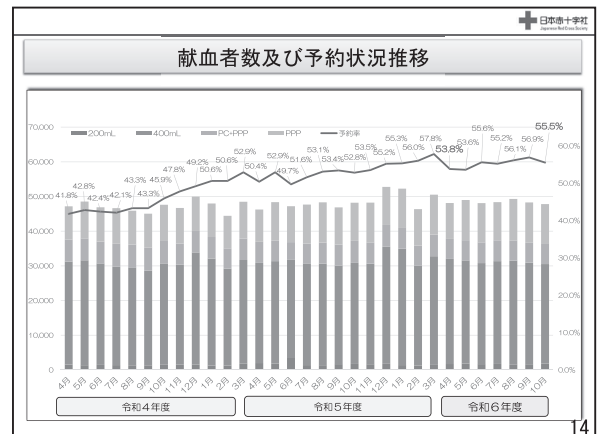
次にWeb会員のラブラッドの活用は年々進んでおり、昨年度と比較しますと、会員数は6万人増加している状況にございます。また、予約率も向上しております。これらのラブラッド機能につきましては、必要血液量を計画的かつ安定的に確保すること、2つ目としましては、ラブラッド会員の増加と複数回献血者への促進といった活用状況にございます。



13

【スライド14】

次に献血者数と予約の状況になります。棒グラフにつきましては献血協力者数、折れ線グラフにつきましては予約率を示しております。一番右側10月の実績ですけれども、55%の事前予約をしていただき、献血に協力をいただいている状況でございます。



【スライド15】

次に現在、日本赤十字社の関東甲信越ブロックにおきまして、12月13日公開予定の「はたらく細胞」とコラボキャンペーンを実施しております。キャンペーン期間は、11月16日から1月15日まで、事前に献血予約をしていただいて、献血にご協力いただいた方へ、記念品をお渡しさせていただいております。

映画「はたらく細胞」コラボ献血予約キャンペーン実施

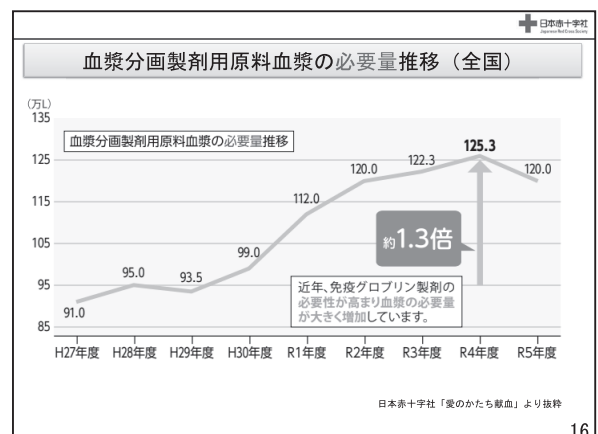
日本赤十字社関東甲信越ブロックにて、12月13日（金）公開の映画「はたらく細胞」とコラボし、ご予約のうえ、献血にご協力いただいた方を対象としたキャンペーン実施。

◇キャンペーン期間
2024年11月16日（土）～2025年1月15日（水）
※キャンペーン期間であっても、記念品がなくなり次第終了となります。

◇対象会場
関東甲信越エリア内1都9県（茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野）の献血バス・オープン献血

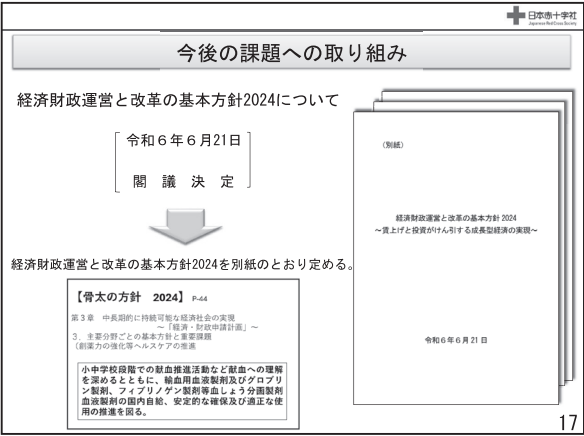
【スライド16】

次に、血漿分画製剤の原料血漿の必要量になります。矢印のとおり、昨年度につきましては1.3倍、125.3万Lの必要量が示されており、年々増加傾向となっております。また近年、免疫グロブリン製剤の必要量が高まり、原料血漿の必要量が大きく増加しているというような状況となっております。



【スライド 17】

次に今後の課題への取り組みといたしましては、今年度、「経済財政運営と改革の基本方針」の令和6年6月21日に閣議決定しました骨太の方針にも、献血への協力、または小中学校の段階で献血推進活動への理解を深めることと、輸血用血液製剤、およびグロブリン製剤、アルブミン製剤も含めた血漿分画製剤の国内自給、安定的な確保および適正な使用の推進を図ることが盛り込まれております。

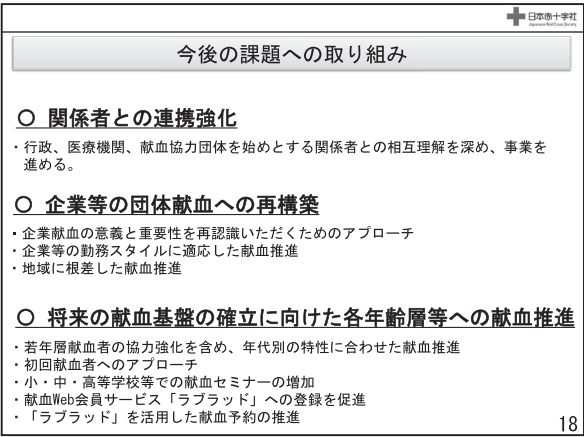


【スライド 18】

このような状況を踏まえまして、まず1つ目としましては、関係者との連携の強化。やはり行政、医療機関、献血協力団体をはじめとする関係者との相互の理解を深め、事業を進めてまいりたいと考えてございます。

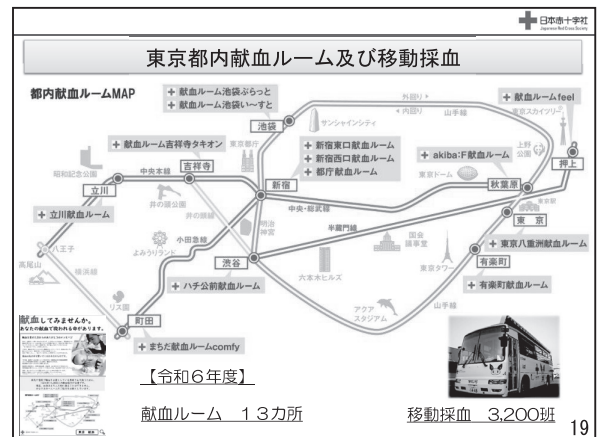
2つ目としましては、企業等の団体献血への再構築、企業献血の意義と重要性を再認識いただくようなアプローチ、また企業等の勤務スタイルに適応した献血推進、地域に根差した献血推進を取り組んでいきたいと考えてございます。

3つ目としましては、将来の献血基盤の確立に向けた各年代層等への献血推進。やはり若年層への献血協力強化を含め、年代別の特性を生かした献血推進、また初回献血者へのアプローチ、小中高等学校の献血セミナーへの増加、献血Webサービス、ラブラッドへの登録の促進、ラブラッドを活用した予約を推進してまいりたいと考えております。



【スライド 19】

最後になりますけれども、都内献血ルームは、下段に記載のとおり、13カ所あります。移動採血は、今年度、3,200班が稼働して、各会場にお邪魔している状況でございます。輸血用血液製剤を安定的に確保するためにも、皆さまのご理解、ご協力が必要となりますので、今後とも引き続き、ご理解よろしくお願いいたします。



【スライド 20】

これで、私の説明を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

